



プレスリリース No. 10/73
即時解禁
2010年3月8日

国際通貨基金
米国・ワシントン DC

**ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事、
世界経済危機により弱体化した政策基盤の建て直しをアフリカ諸国に要請**

国際通貨基金 (IMF) のドミニク・ストロスカーン専務理事は、訪問先のケニア・ナイロビで演説を行い、世界経済金融危機のアフリカへの影響について評価を行った。このなかで同専務理事は、この度の危機は、様々な経路を通じアフリカ諸国へ伝播し各国を直撃したと指摘したうえで、「アフリカ大陸全土で貿易、輸出所得、銀行融資、さらには商業活動が回復するなど、アフリカは再び躍動を見せ始めている」と述べた。また同氏は、IMF では 2010 年には約 4.5% の経済成長を見込んでいることを明らかにし、「つまり、回復を始めたばかりの世界経済に多くを依存してはいるものの、アフリカは復活したと考えられる」との見解を示した。

ストロスカーン氏は、多くのアフリカ諸国が世界危機の勃発以前に適切な政策を行っていたことにより、財政状況の改善、債務負担の軽減、インフレの抑制、外貨準備高の十分な積み増しなどが実現するなど、あらかじめ景気減退の悪化に対する予防がなされていたと指摘した。また同氏は、各国の債務の状況が劇的に改善したことにより、多くの国が、社会支出の維持をはじめとする危機対策に予算を割り当てることが可能だったと述べた。

同時にアフリカの経済見通しについてストロスカーン専務理事は、決して楽観はできないと強調した。同専務理事は「現状に満足している状況ではない」と指摘した。「変動する商品価格、自然災害、或いは不安定な情勢にある隣国、または海外送金や援助に加え流入してくる資本への過度の依存体制に伴うリスクなどを考えれば、アフリカは依然として、様々なことに起因する経済的混乱に対し非常に脆弱である」

ストロスカーン氏は、今後のアフリカが取り組むべき双子の課題として、強力な成長の回復と、様々なショックへの抵抗力の強化を掲げた。「第一に取り組むべき事

項はマクロ経済政策である。この度の危機から得た主たる教訓は、経済的に好調な時に種を蒔いておいた国が、逆境にあって収穫を期待することができる、ということだ。財政政策及び外貨準備高を活用することで、今後、反景気循環的措置を採ることができるよう、政策のバッファーを再構築しなければならない。また、マイナスのショックに対する第一の予防線である社会的セーフティネットは強化される必要がある。さらに、地域別もしくは社会層間で見られる所得不均衡の拡大は、軋轢を高めると共にショックによる不安定さを拡大することにもなり得ることから警戒が必要だ」

さらにストロスカーン氏は、気候変動の問題についても関心を促した。同氏は、途上国、中でも低所得国における同問題への取り組み支援に向け、必要な資金を提供するよう国際社会に求めた。同氏は、この問題は「全てのショックに終止符を打つショック」になり得るとし、「行動を起こさなければ、旱魃、洪水、食糧難、病気など、アフリカはより多くの困難に直面することになり、不安定さが増し紛争も起こりかねない」と述べた。

ストロスカーン専務理事は「気候変動問題は IMF の権限・責務の範疇外だという正当な議論も提起されよう……しかし、必要とされている資金の額は、明らかにマクロ経済に影響を及ぼし、途上国の持続的成長には、気候変動適応・緩和のための大規模且つ長期的な投資が肝要となるだろう」と述べた。さらにこの流れの中で同専務理事は、IMF スタッフが現在「グリーン・ファンド」と呼ばれる構想に着手していることを明らかにした。同ファンドは 2020 年までに 1 年につき 1,000 億米ドルを調達することが可能だとしているが、同専務理事は、IMF はそのようなファンドを管理運営する意図はないものの、これは「国際的議論を喚起し検討を促す一つの重要なきっかけを提供することを目的としている。そして何よりも、今こそ新しいアイデアについて議論を重ねる時なのだ」と述べた。同専務理事は、そのような計画の立ち上げには多大な政治的努力を伴うとしながらも、「その努力の結果は、おそらくアフリカ・世界双方にとり、非常に大きな利益をもたらすものとなるだろう」と述べた。